

どの学年の皆さんも、人生の中の比較的大きな選択の時です。

涼しい日が増えてきましたね。ハンディな扇風機を持たなくても過ごせるようになってきました。もこもこした雲が羊の群れのように青空に浮かぶのも見られます。部活動もままならない日々ですが、お元気ですか。

3年生は共通テストの志願票の提出締切が今日ですね。受験するかもしれない大学をめぐって考えて、受験科目を決められましたか。1・2年生は、文理選択や科目選択の時期ですね。こちら受験するかもしれない大学を十分に考えてから選ぶことができましたか。

もちろん、ここでの選択で人生が全て決まるわけではありませんが、今後の高校生活や大学生活、その後の人生に大きく関わるのも確かです。今まで、実はやりたいことがあったけど多分無理だからと、「まあそれでいいや、そんなもんさ」とほったらかしてきたことはないですか。見ないフリをしていて、知らず知らず隠していた皆さんの本当の気持ちがあったりしませんか？好きなものを好きだと言うのは怖くてしかたないことですが、思い切って胸の内を吐き出すのならば今しかないかもしれません。

進路の実現に向けて

そうやって目指すことを決めた進路に向けて勉強し始めると、壁にぶつかります。勉強をすればするほど、自分の目標がとても高いこと、自分の力がまだまだ全く足りていないことに気づきます。目標に近づこうとして一歩踏み込むほどに苦しくて、悔しくて…。目標が、手を伸ばせば伸ばすほどに遠くへいってしまうような感覚になることでしょう。

皆さんの中に、特に3年生の中にはそういう気持ちになっている人が多いかもしれませんが、それは真剣に目標に取り組んでいる証拠です。目標に対して、一歩ずつ近づいているからこそ、しっかりと向き合っているからこそ、感

じられる痛みです。今、確固たる自信がない中で、何回も何回も積み上げていることがそれぞれにあると思います。いつまでも自信は持てないかもしれませんが、そうやって繰り返してきたことが、皆さんだけの強い武器になります。その武器を手にすることができれば、やがて進路実現に向かう、小さな光を見つけ出すことができるはずです。

東京2020パラリンピックの水泳競技に出場した木村敬一選手は、金メダルを獲得後に次のように言っていました。「この日のために頑張ってきた『この日』って本当に来るんだなと思った。特にこの1年いろんなことがあって、この日は来ないんじゃないかと思ったこともあった。ちゃんと迎えることができて幸せ。家に帰って思い切り泣きたい。」木村選手の場合、中止もありえたパラリンピックが何とか開催され、さらに目指してきた金メダルを取れたということで、このコメントになったのかなと思います。

蟻高生の皆さんが、いつか「『この日』って来るんだな」と言えることを願っています。でも、その日を迎えるためには、目標がどんどん遠ざかるような感覚になることを厭わず、苦しい状況に身を置かなければなりません。皆さんは、そんな勇気や覚悟を持ってそうですか。

木村選手は周囲への感謝も口にしていました。これは他のパラリンピアン、オリンピックも同様です。彼らはたった一人で様々な困難を乗り越えてきたわけではなく、必ず支えになる人がいます。皆さんも、苦しい状況に対してたった一人で立ち向かわなくてもいいのです。お家の方、友人、先輩、後輩、担任、部活の顧問などに、隣や後ろで支えてもらえたら、勇気や覚悟を持ってそうですよね。